

日本キリスト教会 広島長束教会だより

# ミニバラ No.75

〒731-0135 広島市安佐南区長束 3-32-16



TEL/FAX

082-238-3459

2022年12月発行

## お言葉どおり、この身になりますように

わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように

(ルカによる福音書 1章 38節)

救い主の母となったマリアは名もない家の娘でした。彼女は私たちと同じ普通の人間です。もっとも、今この場所にいる女性に伺いたいのですが、かりに天使が現れて、あなたは神の子を宿したと告げたとします。マリアのように「お言葉どおり、この身に成りますように」と言えますか。言えないと思うのです。そのところがマリアと他の人間の違いでありましょう。

天使ガブリエルから「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」と告げられたマリアは不安でいてもたってもいられない状態になりました。そのマリアに天使は、「あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい」と、そしてさらにイエスの将来について、気が遠くなるようなことを告げたのです。

マリアはこの時、とんでもない所に立たされてしまいました。彼女は「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに」と言いますが、そこには自分の身に及ぶかもしれない災いを恐れる思いが見えます。マリアは婚約中で、夫ヨセフとはまだ一緒になっていません。おとめの身で妊娠するなんてありえないことで、マリアに責任がないこととはいえ、社会からは重大な罪だと見なされることが確実でした。さらに、天使から言われた「その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる」などの言葉は、マリアにとってみたらあまりに現実ばなれしていて、まったく理解出来ないことであつたでしょう。

それまで静かな生活を過ごしてきただろうマリアの上に突然神が介入されました。私た

ちがそこに心乱され、不安にうろたえるマリアの姿を診ます。しかしながら、困難な状況に陥った時、問題を根本から解決するために必要なことが信仰だということをマリアの例は示しています。もしも神がその状況をもたらされたのなら、神によって困難を克服することが出来るのでないでしょうか。

マリアの「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに」との言葉に対し、天使はその思いに応え、マリアが妊娠する理由を説明します。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生れる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」。

天使はさらにマリアの親類のエリサベトが身ごもっていることを告げ、「神にできないことは何一つない」と言います。エリサベトがもう老年になっていたのに妊娠したという事実が、神が全能であられることをマリアに確信させたのです。もっとも「神にできないことは何一つない」で「こと」と訳されている言葉は、マリアのこのあと出て来る「お言葉どおり、この身に成りますように」の「お言葉」と同じです。だから天使の言葉を直訳すると「神にできない言葉は何一つない」と訳すことが可能ですが、日本語としては変なので「神の言葉で実現出来ないことは何一つない」と考えたら良いでしょう。

神の言葉は、やがてイエス様の十字架の死、復活、教会の誕生という、歴史上唯一無二の偉大な出来事を実現させることになります。マリアはまだそのことを知らないものの、言われたことを必ず実現させる、神の力ある言葉を信頼した、だから「お言葉どおり、この身になりますように」と言うことが出来たのです。マリアは神の言葉に全幅の信頼を寄せることで、ついにこの自分で良ければお用い下さいと言うことが出来たのです。

(2022年12月11日の礼拝説教より)

牧師 井上 豊